

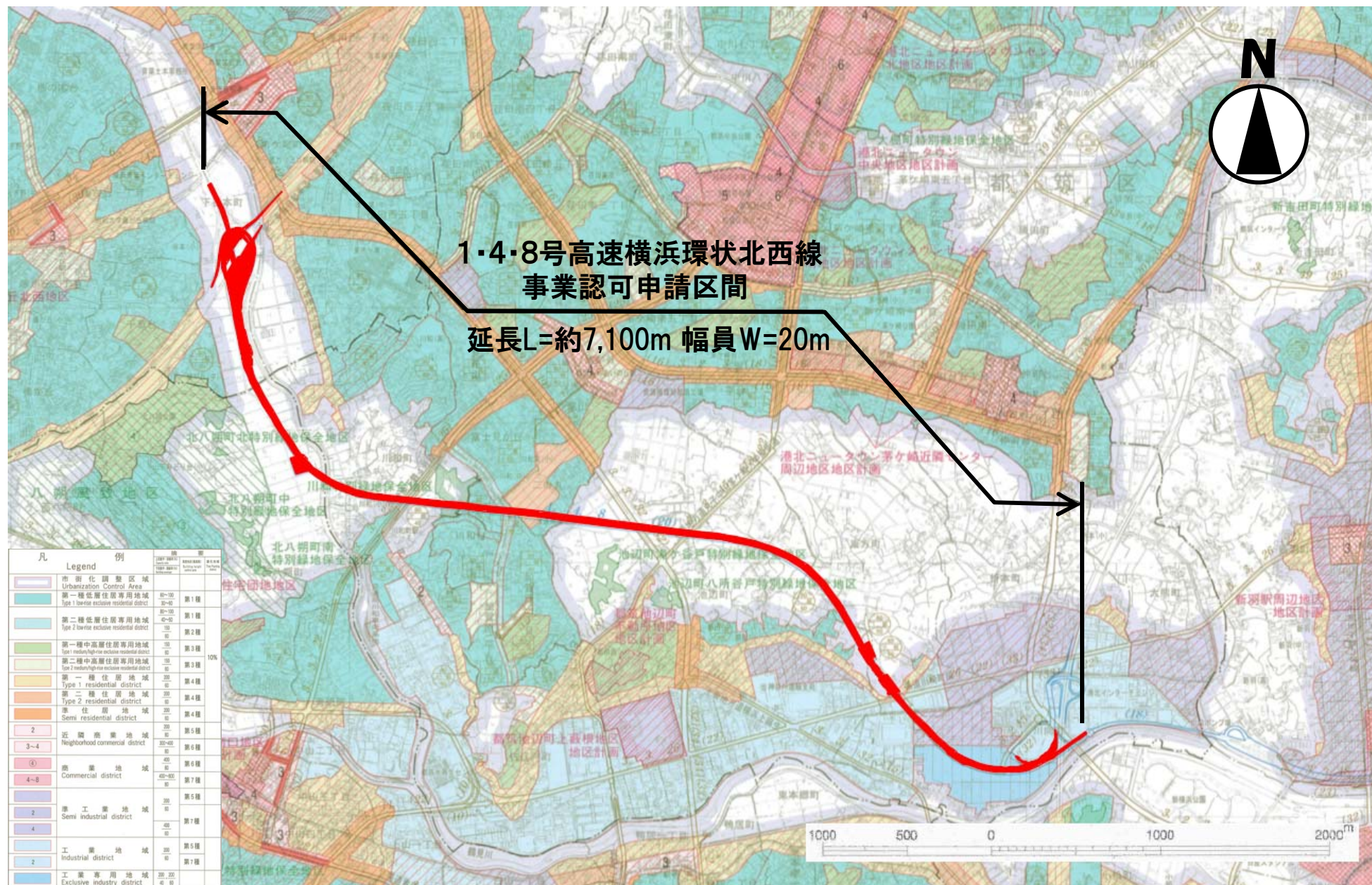
事業概要

応募No.	10		
事業主体	横浜市・首都高速道路株式会社	実施都市名	横浜市
応募者名	横浜市道路局		
ふりがな 事業名称	よこはまこくさいこうとけんせつどうろじぎょう1・4・8ごうこうそくよこはまかんじょうほくせいせん 横浜国際港都建設道路事業1・4・8号高速横浜環状北西線		
事業概要 (400字以内)	横浜北西線は、東名高速道路の横浜青葉ジャンクションと第三京浜道路の横浜港北ジャンクションを結ぶ延長約7.1kmの自動車専用道路です。 横浜北西線は、市北西部と横浜都心や湾岸エリアとの連絡強化、保土ヶ谷バイパスの交通混雑の緩和や、災害時における道路ネットワークの信頼性向上などが期待されるため、早期開通が望まれていました。そこで、円滑な事業進捗に向けて、構想段階から市民意見を取り入れるとともに、事業実施に合わせて地元に寄り添って沿線のまちづくりを行うなどをして、事業に対する地域合意形成を図りました。 また、施工においては、トンネル工事と設備工事を同時に施工するなどの工期短縮の取組を行い、10年間の事業期間を2年短縮し、令和2年3月に開通しました。		
事業規模	事業延長	約7.1km	
	幅員	20m	
	事業期間	平成24年度～令和3年度	
	事業費	約2589億円(街路事業費約1522億円、有料道路事業費1067億円)	

事業位置図



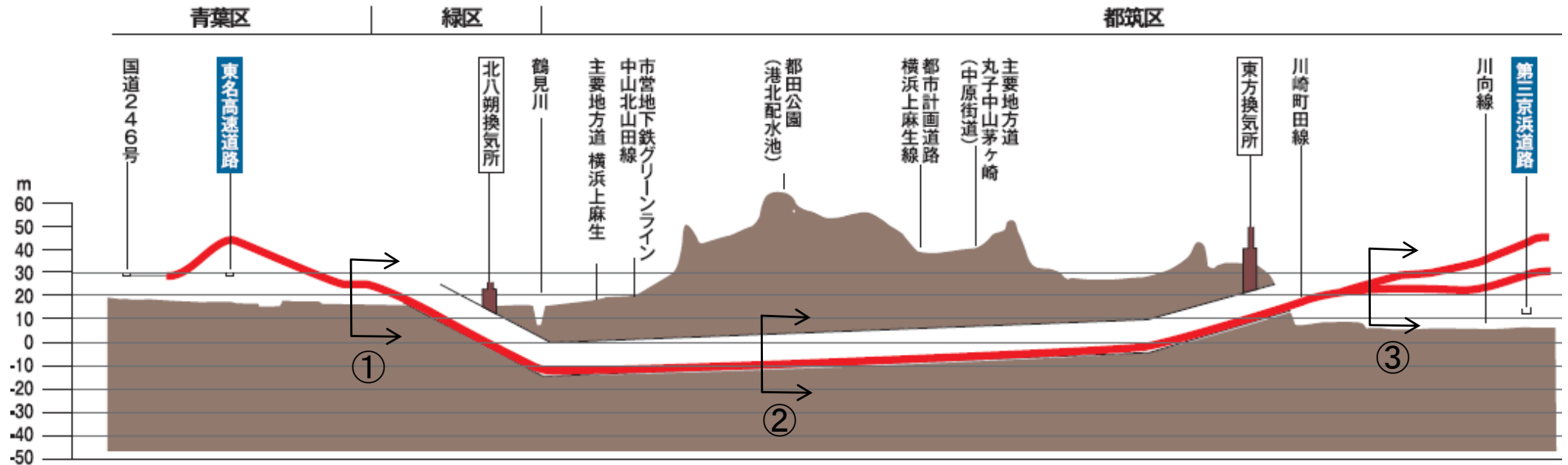
都市計画図(用途地域図)



平面図



縦断面図・横断面図



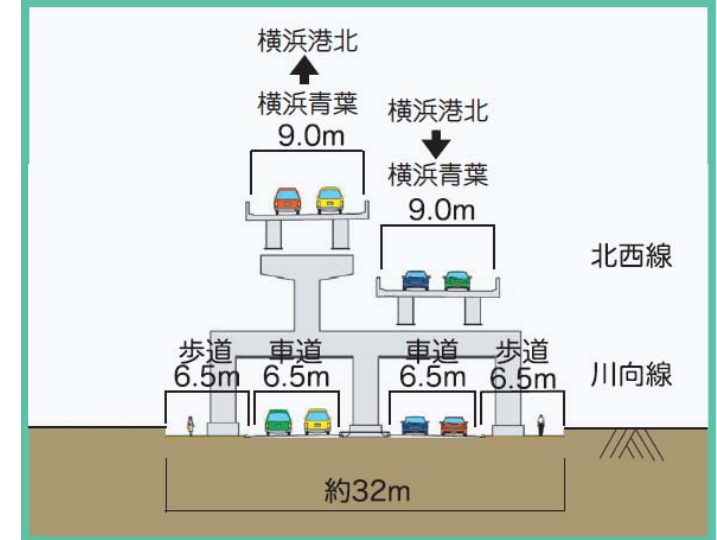
①高架部



②トンネル部



③高架部



路線全体の進捗状況



横浜北西線の事業経緯

2003年6月	PI手法を用いた計画づくりを開始
2005年8月	概略計画の公表
2011年3月	都市計画決定
2012年7月	都市計画事業認可
2014年11月	工事着手
2020年3月	供用開始

事業認可から**わずか8年**で開通2017年3月
シールドマシン発進式2018年9月
シールドマシン到達

事業前写真

平成23年1月撮影

横浜青葉JCT周辺



横浜港北JCT周辺



事業後写真

令和2年3月撮影

横浜青葉JCT周辺



横浜港北JCT周辺



横浜北西トンネル



高架部



開通時



横浜港北JCT



ストック効果

東名高速道路から横浜港までが**最短約20分***
開通後約半年で**利用者が着実に増加(約3.7万台/日)**

国際競争力の向上

- ▶ 東名高速道路と新横浜都心(陸)、横浜港(海)および羽田空港(空)が直結

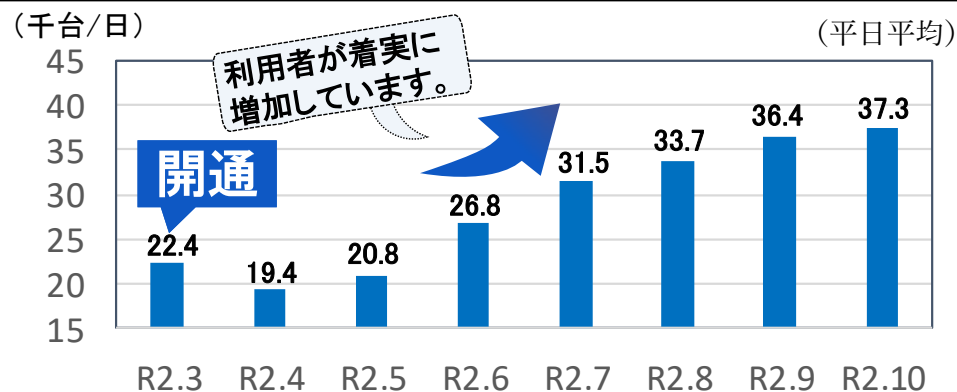
災害時等の道路ネットワークの信頼性向上

- ▶ 救援や物資の輸送ルート多重化
- ▶ 災害拠点病院へのアクセス性向上

アクセス性の向上・物流効率化

- ▶ 東名高速道路から横浜港への所要時間短縮
- ▶ 横浜港の発展および経済活性化

横浜北西線の交通量の推移



東名高速道路～横浜港までの所要時間



横浜港



羽田空港



地域の活性化

北西線事業を進めるとともに、事業者が主体的に沿線のまちづくりを支援することで、**沿線の地域活動が活性化**

地域農業の活性化 ～イベント・活動支援～

農業活性化を目的として、イベント開催や農産物直売等の活動を支援



R2年度
認定組織発足

地域活動の振興 ～地域活動施設の設置～



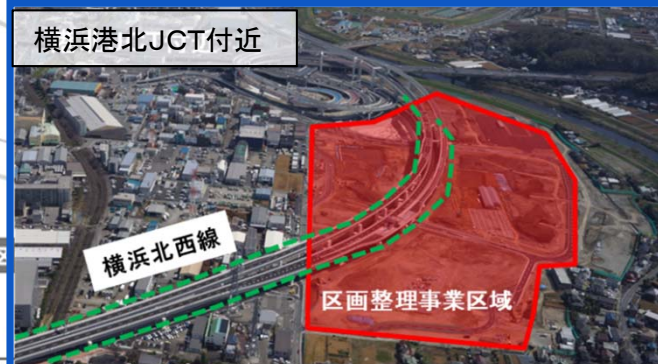
横浜北西線

R2年度以降
開所予定

地元とともに北西線のトンネル上部利用について検討を重ね、地域活動施設の整備を実現

まちづくりの進展 ～区画整理事業開始～

北西線事業を契機として区画整理事業が開始され、合同で調整池を整備するなど互いに事業を効率化



横浜港北JCT付近

R4年度
事業完了予定

交通課題の解消 ～ボランティアバス支援～

高齢者の買い物や通院など日常生活の移動を支援するため、小型バスを北西線施工業者が提供し、地域主体のバス運行を開始



R1年度
本格運行

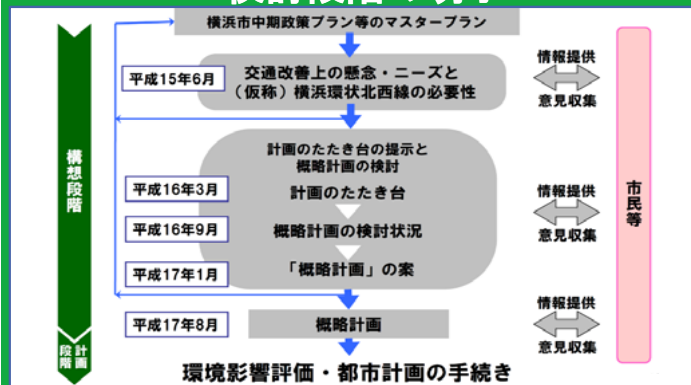


構想段階における 地域合意形成

日本で初めて構想段階から **PI**※を実施
⇒ 事業段階における **地元からの反対意見なし**

※ 計画の初期段階から、関係する市民等のみなさまに情報を提供しつつ、広くご意見を聴き、それらを計画づくりに反映する手法

PI検討プロセスの明確化 ～検討段階の明示～



PIプロセスを検討開始に合わせ周知し、現在どの検討段階であることを明示

概略計画の検討 ～複数のルートについて比較検討～



提案された13ルートを交通・環境・土地利用・社会経済の指標で比較検討

市民との意見交換 ～地元説明会で配席や運営を工夫～



地域説明会では、行政と市民の対立構造とならないよう配席や運営を工夫

手続きの透明性を確保 ～有識者会議の設置(12回開催)～



手続きの透明性・客観性・意見の分析に関する助言・評価を目的に設置

周知の徹底 ～段階的な情報提供・意見把握～

広報紙(12回)	約1800万部
パンフレット(5回)	約5万部
オープンハウス(47回)	約1万人来場
地域説明会(38回)	約1千人来場
ホームページ	約42万アクセス

多様な広報ツールを活用することで市域全体に周知を徹底

市民意見の公表 ～みなさまの声を全て公表(4回)～



いただいた意見は冊子・ホームページで全て公表

事業段階における 創意工夫

地元参加のイベント等により事業理解を得るとともに、
工程短縮に取り組み、**事業期間2年短縮**を実現

地元参加の取組 ～換気所デザインを検討～



トンネルの換気所（2箇所）について、周辺地域の景観に調和するように、地元と合同でデザインを検討

戦略的な広報 ～フォトコンテスト・北西線ボトル作成～



施工現場を対象としたフォトコンテストを開催
普段は入れない施工現場に市民を招いて現場撮影会を実施
北西線事業を広くPRするため、北西線ボトルを配布・販売

地元見学会 ～5年で累計6,000人が参加～



北西線をより身近に感じてもらうため、地元等を対象とした見学会を積極的に開催～工事開始から5年で、累計6,000人が参加～

工程短縮 ～トンネル掘進と設備工事を同時施工～



工程短縮を図るため、タイヤ式台車を使用するなどして、設備の施工空間を生み出し、トンネル掘進と設備工事の同時施工を実現

